

アイデア対決! 小学生ロボコンについて

2024年6月版

<https://official-robocon.com/shougakusei/>

小学生ロボコン実行委員会
(NHKエンタープライズ・科学技術館)

■はじめに

「アイデア対決! 小学生ロボコン」は、「高専ロボコン」※1、「NHK学生ロボコン」※2、「ABUロボコン」※3に続く第4のロボットコンテスト（ロボコン）で、ロボット好きの小学生のための大会です。2018年度のプレ大会を経て、2019年度から開催しています。以下、「小学生ロボコン」と略記します。

※1：「アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト」。高等専門学校の各キャンパスから参加。

※2：日本各地の大学、高等専門学校や大学校から参加。優勝チームなどがABUロボコンへ出場。

※3：「ABUアジア・太平洋ロボットコンテスト」。アジア太平洋の国・地域の高等教育機関から参加。

小学生ならだれでも個人で参加できます。

自分ならではのアイデアでつくったロボットで、競技課題に挑戦してみてください。

競技課題やルール、全国大会に出場するための予選会の形式などは、年によって異なります。当該年度の最新のルールブックや募集要項などをご参照ください。

この文書では、小学生ロボコンの考え方や用語、禁止事項などを説明します。参加したい小学生は、必ず大人と一緒に確認してください。

小学生ロボコンの考え方

小学生ロボコンでは、小学生のアイデアを大切にしています。

競技課題を通じて計測されるスコアやタイムだけでなく、その課題に挑戦するためのロボットのアイデアを重視します。そのため、特に全国大会では、各協賛企業からの「特別賞」、そして「小学生ロボコン大賞」※4などを、アイデアを重視して贈ります。

※4：大きな夢とロマンを持ってアイデアあふれるロボットを作成し、素晴らしいチャレンジで見る者に最も深い感動を与えたことを表彰する賞。

競技によってスコアやタイムが計測されるため、選手たちが悔しい思いをすることも少なからずあるでしょう。しかしながら、競技課題に取り組む自分なりのアイデアを出し、そして実際にロボットを制作し、また操縦するのは、とても素晴らしいことです。

そして、自身のスコアやタイムにかかわらず、他の選手のロボットを目にすることで、また違ったアイデアの着想を得て、次のロボットづくりやものづくりなどに活かすいい機会です。

そのため、きょうだいやグループで参加する場合も、複数の選手によるロボットやロボットの部品の共用はできません。

グループ参加の場合、選手同士で似ているロボットがあることはおすすめしません。特に、根本的な構造や制作過程がほぼ同じロボット群での参加はおやめください。

また、ロボットの制作や操縦などは、全て選手自身が行うこととしています。大人をはじめとする選手以外が、ロボットづくり自体を手伝うだけでなく、競技中に操縦のための指示を出すようなことも禁止です。小学生ロボコンは文字通り、小学生の選手のためのロボコンです。材料や道具の素晴らしさを競ったり、大人の技術力に依存したり、周囲からの入れ知恵に従って点数を得たりするための競技ではありません。限られた材料や道具しか使用できないなどといったルールの制約の中で、選手が自分で考え、また自分の力で作業することが何よりも大切です。保護者や学校の指導者などの皆様には、参加申し込みなどの手続きと、ロボットづくりの周辺でのご支援をお願いします。競技中は心の中で応援してください。

こういった経験を通じて、ロボットづくりだけやその操縦の技術だけを学ぶのではなく、「自ら課題を見つける力」や「正解がない時代を生き抜く力」、また時として「仲間と協力して課題に取り組む力」を身につける――。小学生ロボコンはそんな一助になりたいと考えています。

■小学生（しょうがくせい）

小学生ロボコンに出場できるのは原則として、日本国内に在住し国内の初等教育機関（小学校、義務教育学校の前期課程、特別支援学校の小学部）に在学中の児童です。

特別な事情がある場合には、事前に予選会の主催者および事務局へご相談ください。

予選会によっては、居住地や学年など、その他にも出場可能となる条件が付されることがあります。

■選手（せんしゅ）

予選会や全国大会に出場する小学生です。

ロボットの制作や操縦などは、安全に充分注意した上で、すべて選手自身が行う必要があります。

■小学生ロボコン実行委員会（しょうがくせいロボコンじっこういいんかい）

株式会社NHKエンタープライズと科学技術館（公益財団法人日本科学技術振興財団）で構成する、小学生ロボコンを主催する組織です。

■ロボコン事務局（ロボコンじむきょく）

小学生ロボコン実行委員会を代表して実務を行う、NHKエンタープライズ内に置かれている組織です。

高専ロボコンやNHK学生ロボコンでも同様の役割を担っています。

多くの場合「事務局」と略称します。

■事務局（じむきょく）

ロボコン事務局の略称です。

■全国大会（ぜんこくたいかい）

予選会を経て推薦・選出された選手が出場する、当該年度の小学生ロボコンを締めくくる大会です。小学生ロボコン実行委員会が主催します。

連絡先は事務局です。

■予選会（よせんかい）

小学生ロボコン実行委員会が主催する予選会と、他の主催者による連携予選会の総称です。

小学生ロボコン実行委員会が主催する予選会では、成績やアイデアが優れている選手などの全国大会出場を決定します。

連絡先は事務局です。

原則として、全国大会の競技内容に類した競技課題で行われますが、完全に同じわけではありません。

連携予選会からは、成績が上位の選手などが全国大会に推薦されます。

連絡先は各主催者です。

■連携予選会（れんけいよせんかい）

小学生ロボコン実行委員会以外が主催するロボットコンテストなどのうち、小学生ロボコンと連携し、全国大会への推薦枠を有するものをいいます。

競技課題はそれぞれの主催者が決定するため、全国大会や小学生ロボコン実行委員会が主催する予選会の競技内容に似ているものも、全く異なるものもあります。

■リアル

予選会の多くと全国大会は、原則として実会場で開催されます。「リアル予選会」などと称することがあります。会場はルールブックや募集要項などで示されます。

対義語は「オンライン」です。

■オンライン

一部の予選会などは、ビデオ会議システムを介して開催されることがあります。「オンライン予選会」などと称することがあります。

ツールや接続方法などの詳細は、ルールブックや募集要項などで示されます。

対義語は「リアル」です。

■審判（しんぱん）

予選会や全国大会に際して、競技がルールブックの通りに進められているかや反則がないかなどを判断するスタッフです。主催者が手配します。

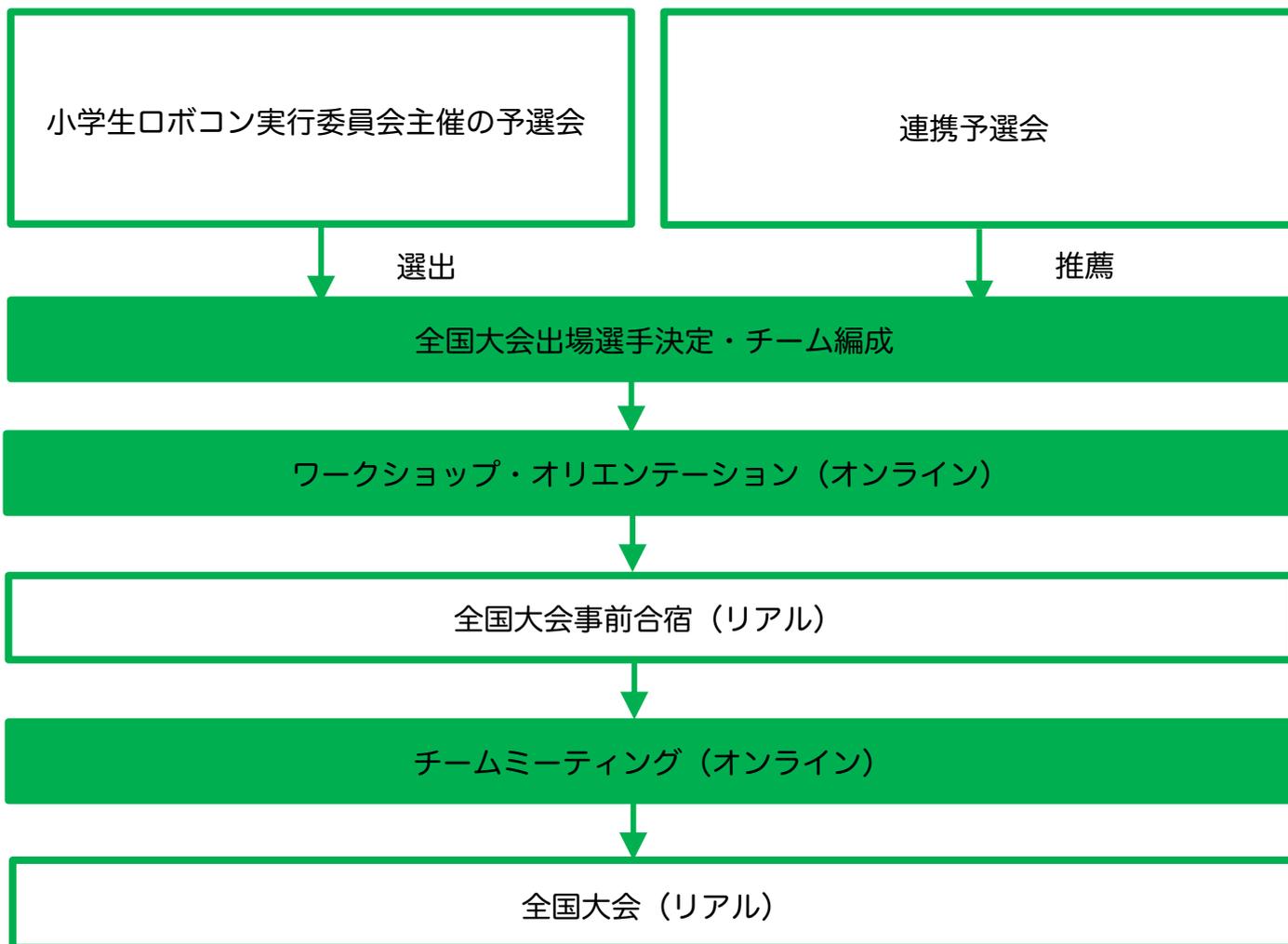
複数形は「審判団」です。

選手は審判の裁定に従う必要があります。

■審査員（しんさいん）

一部の予選会や全国大会で、アイデアを評価するスタッフです。主催者が手配します。

全国大会までの流れ



予選会には個人で出場します。

予選会の結果により全国大会選出・推薦選手が決定されますが、選手の都合などで入れ替わることがあります。

全国大会は、出場が決定した選手間で編成したチーム戦で行います。出場には、事前キャンプへの出席と、チームミーティングなどへの積極的な参加を必須とします。

特に小学生ロボコン実行委員会主催の予選会と大きく形式の異なる連携予選会から推薦された全国大会出場選手へは、ロボットづくりやルールブックの読み解きなどについて、事務局などから支援を行う予定です。

禁止事項

競技における禁止事項はそれぞれの予選会・全国大会のルールブックや募集要項などで定めませんが、小学生ロボコン全体を通じて、以下を禁止します。

- ・選手以外によるロボットづくり
- ・選手以外による競技の手助け
- ・きょうだいなどであっても、複数の選手によるロボットの共有
- ・競技中か否か、リアルかオンラインかなどにかかわらず、他の選手や観覧者、主催者、審判、審査員、スタッフや関係者への非難や誹謗中傷など
- ・主催者他関係者の指示に従わないこと
- ・主催者他関係者への過度の要求や、所定の連絡先以外による主催者他関係者への接触など、公平性を欠く行為全般

いずれかの事項が判明した段階で、それぞれの予選会・全国大会の主催者は、警告や選手の失格を宣言することができます。

また、選手の保護者や指導者などが禁止事項に著しく抵触した場合、当該選手を失格とします。

警告を受けた場合、スコアやタイムに罰が課せられるなど、競技における不利益が生じることがあります。また、警告の累積により失格となることがあります。

それぞれの予選会における警告や失格の情報は、主催者間で共有します。失格となった場合、出場していた予選会の記録は無効になります。加えて、当該年度の別の予選会にも出場できません。

全国大会への出場が決定した後で失格となった場合、事前キャンプやチーム内打ち合わせなども含め、以降の参加・出場は認めません。チームの構成はその都度調整します。

失格となった選手については、小学生ロボコン実行委員会が主催する関連イベントや、ロボコン事務局が運営するその他の行事への参加もお断りすることがあります。また、次年度以降も出場や参加を認めないことがあります。